

# 明倫小学校百年 その1-明治時代

東京市（現東京都）がワシントンへ桜の木を送り、日本で初めて板チョコレートが作られた明治42年。明倫校区でも新しい動きが起こっていた。明倫小学校の百年の歴史を学校沿革史を中心に、まとめていきたいと思う。

当時、明倫小学校区の児童は成徳小学校に通学していた。しかし、児童数の増加で成徳小学校では収容できなくなり、明倫小学校設立の運びとなった。

明治42年2月27日本校設立が決定、3月24日「明倫尋常小学校」名称が許可された。校名は、成徳尋常高等小学校長奥野虎治氏の考案により、小学明倫編の明倫から取ったものである。その内容として「明明之倫人倫也 其目有五明父子之親 明君臣之義 明夫婦之別 明長幼之序 明明友之交」とあり、その精神はいわゆる人倫五徳を養い之を明らかにすることであった。

4月1日には本校設立認可され、4月4日に職員着任した。職員は校長他5名の訓導（現在の教諭）のみであった。4月5日に開校、4月7日から授業開始。明倫小学校としての校舎はなく、成徳小学校校舎を借りてのスタートであった。同日には校章も制定された。校章の桜は、桜を愛する日本民族の精神を表し、中央の「倫」は、人の倫を明徴する「明倫」の倫をあらわしている。

学級編制は1年から6年まで8学級、全校で514名（1・2年生のみ男女共学で男子98名、女子416名）であった。児童数の割には職員数が不足しており、授業は午前と午後の二部制で始まり、1年と2年は休課となった。

その後2名の職員が着任、4月12日ようやく全校の授業が開始できた。さらに職員1名が着任、全職員が揃い支障なく授業を開始できることとなった。

7月29日、学校新築確定。新築にあたっては鍛冶町（旧明倫小学校建設地）の他複数候補地があったが、最終的に鍛冶町に決定、8月15日建築に着手する。

行事に関しても学校沿革史にはいくつかの記述がある。主なものを列記すると、「5月5日 修学旅行 5年、6年と4年の有志児童を引率、西伯郡米子町へ。当日列車にて帰る。」

「10月16日 明倫成徳連合大運動会。」

「3月24日 証書授与式。卒業児童49名。」等とある。成徳小学校とは、運動会を始め各種行事をしばらくの間合同で行うことが多かったようである。

翌明治43年度には本校に高等小学校を併置することとなり、4月1日に許可。そのため、学級編制は尋常小学校1年～6年に高等小学校1学年女子19名が加わり合計11学級540名（男子97名、女子443名）となった。

4月5日 第1回学校創立記念日。

4月23日には本校新築祝賀のため、国旗行列を挙行了した。

5月1日に本校舎新築落成式挙。300名余の来校者があった。現在、創立記念日を5月1日としているのはこれによることとなる。

5月2日 本校舎落成祝賀のため、終日一般観覧を許可した。学校公開である。

5月31日 成徳明倫両校合同研究会開始。毎学期ごと両校で開催、第1回は成徳校にて開く。その後、両校合同での研究会等を度々開催している。

10月16日 成徳明倫連合大運動会。成徳校にて、64種目83面。

記録によると、午前8時に開会し、午後4時10分に閉会したとある。成徳小学校との合同の運動会でもあり、かなりの数の児童・保護者が参加し、地域をあげての大イベントであったと想像できる。両校合同の花運動、国旗行列を最後に演じて終了したとある。

3月24日 卒業修業証書授与式挙。卒業児童56名。

明治44年度、45年度についてもほぼ同様の記録となっているが、成徳小学校との連携を取りながらも次第に明倫地区の小学校として確立されていったことがわかる。

特記すべきこととしては明治44年に高等科がわずか1年間で廃止となり、高等科の生徒は紆余曲折を経て4月7日付けで成徳校に入学したとある。

明治45年7月30日に明治天皇が死去された。明倫小学校においても当日哀悼式を挙行了したこと、元号が変わった大正元年9月13日には御大葬奉悼式挙行の記録がある。

また、日本最初の南極探検隊が南極に上陸したこの年、国際的にも中国で清朝が滅亡やイギリスの客船タイタニック号が氷山に衝突沈没等大ニュースが起きたこの年を最後に明治時代が終わり、大正時代が幕開けとなる。大正時代の明倫小学校については次回のたよりで紹介します。



<学校沿革史>



<上：当時の職員

下：明治45年2年生集合写真>



<書き方手本(1年)>

## 明倫小学校百年

### その2-大正時代

東海道本線全線複線化の完成、松下幸之助（現パナソニック創始者）「ソケット」販売開始といった国力高揚・様々な発展を予感させた大正初期、教育においても大正デモクラシーを背景とした新風が起きていた。暗記を重視した画一的な指導法から、「個性を尊重した児童中心の教育」「自由教育」を掲げた教育実践が進められた。記録（学校沿革史誌倉吉市誌等）から大正時代における明倫小学校の歴史を振り返ってみる。

○学校行事が計画的に織り込まれだし、児童にとって学校生活が魅力的になるとともに、地域における学校の役割が大きくなっていった。

運動会が開校当時から成徳小学校と合同で行われていたことは第2号で記述しているが、明倫小学校単独で開催するようになってからも大正の終わり頃までは10月16日に開催されていた。

修学旅行は、県内または近県に日帰りで行っていた記録が残っている。

臨海学校については、大正8年の学校沿革誌に次のような記述がある。

・7月30日～8月3日 明倫成徳両校共同臨海教育実施。

○体育・芸術の指導レベルが向上し、学校対抗の大会等も盛んに行われた。

#### <修学旅行の様子>

特に、庭球・バスケット・野球・陸上競技等が盛んであった。

大正11年度学校沿革誌には「本年度秋季挙げる本郡小学校オリンピック競技大会において尋常科総点数の第1位の名誉の優勝旗並び3・4年生リレー優勝旗を獲得せり」とある。

大正14年度学校沿革誌には「郡内小学校野球内小学校庭球大会において優勝す。山陰小学オリンピック競技大会において優勝旗2本獲得す。」と記述されている。

○校舎・校庭等の整備が進んだ。学校医の制度もでき、児童の身体検査もきちんと行われるようになった。

大正10年度学校沿革誌には次のような記述がある。

・10月7日 新校庭竣工 竣工式挙る

・児童数激増のため校舎狭隘 到底収容の余地無きため本町会は9月21日校舎一棟増築及び雨天体操場拡張の決議をなし起工 翌年新校舎落成 大正11年度学校沿革誌にも次の記述がある。

・裏に広き運動場も出来上がりたること 殊に屋外体育を一層奨励したる結果ならん 本年度身体検査の結果児童の身長、胸囲、及び体重等例年に比して増加せるを認む。

○大正7年度は米騒動が起こり、スペイン風邪が世界的に大流行して日本国内でも15万人が死亡した波乱の一年であった。明倫小学校でも、

・9月14日 洪水のためご真影を八幡神社に奉遷

・9月15日、16日 浸水被害のため休校す

・11月5日 悪性感冒流行のため第1学年休校す

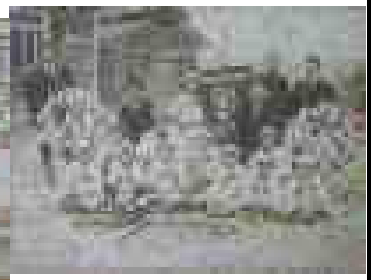
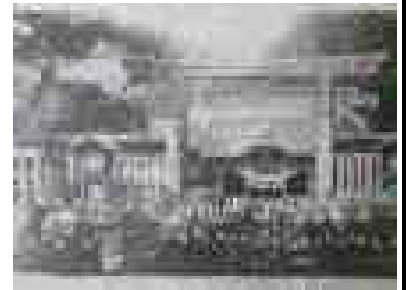
・11月6日 前事情により本日より21日まで全校休校す

#### <大正11年落成校舎>

という記録があり、大変な状況であったことが分かる。

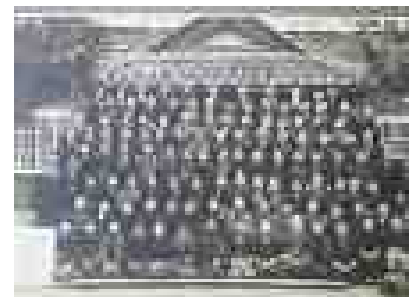
○児童生徒数の増加。学校沿革誌によると、大正2年度11学級545名であったが、大正14年度には19学級（含高等科女子部3学級）となっている。これは、純然たる児童数の増加とともに、大正11年度より高等科女子部を併置し、明倫尋常高等小学校と改称したことも影響している。このように大正時代を通して各方面に渡って整備が進み、学校としての教育理念や教育方針が確立されていったのである。

かけ足で大正時代の明倫小学校の歴史を振り返ってみた。時は流れ、欧米で独裁政治が起こり、世界恐慌へと進む昭和時代に入っていく。昭和初期の明倫小学校については次回のたよりで紹介します。



大会において優勝す。郡

内小学校庭球大会において優勝す。山陰小学オリンピック競技大会において優勝旗2本獲得す。」と記述されている。



<校舎前での学年写真>

# 明倫小学校百年

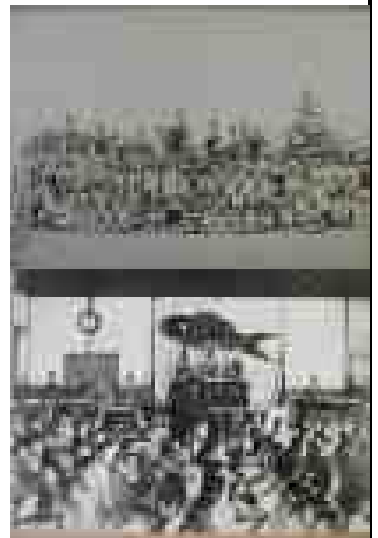
## その3-昭和初期

モガ (モダンガール)・モボ (モダンボーイ) といった言葉に象徴されるように順調に成長を続けていた昭和初期、しかし昭和4年株価の下落に端を発した世界大恐慌が状況を一変させた。経済的な不況は政治にも影響を及ぼし、独裁宣言をする国が出来るなど不穏な動きであった。

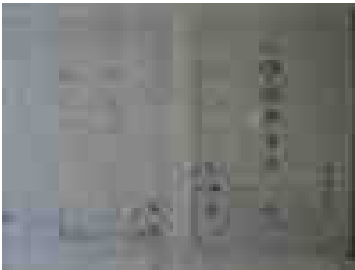
この時期の明倫小学校に関する記録は文書としてはほとんどなく、写真が現存するのみである。そのため、写真や他の記録 (倉吉市史や成徳創立百年記念誌) を参考にして振り返ってみる。

昭和初期には、大正時代に整備されてきた学校としての教育理念・方針の下教育活動が進められていた。通常の学習のみならず、学校内外での行事も行われていた。修学旅行をはじめ、昭和2年に八橋海岸で初めて行われた臨海学校もしばらくの間続いていたことがわかる。

また、季節の節目には学校としての行事 (雛祭り、端午の節句、盂蘭盆等) が行われていた。端午の節句には、講堂に集まって壇上に飾られた各種スポーツ大会での優勝旗・優勝カップや鯉のぼりや甲冑が並ぶ中、端午の節句に関わる話を聞いたりした。



<上: 臨海学校  
下: 端午の節句>



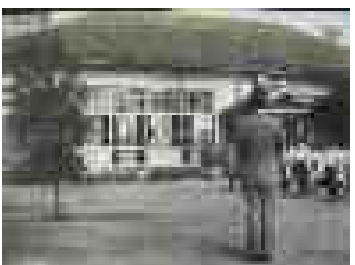
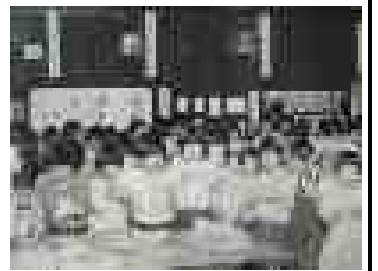
<上: 国定教科書・下: 国旗掲揚塔竣工式>

昭和6年に満州事変が起こり、日本は国際連盟を脱退し孤立化への道を歩むこととなる。こうした動きの中、昭和8年国定教科書が全面的に改定された。

それまでの「ハナ ハト マメ マス ミノ カサ カラカサ」から始まった国語の教科書は「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」になった。続いて「ススメ ススメ ヘイタイ ススメ」がのっており、さらに「兵営だより」「大演習」「軍艦生活の朝」「機械化部隊」等となり一段と戦争の影響が教科書にも反映していたことがわかる。

戦火が進むにつれ、教育面でも幼いときから銃後の護り・戦局下における国民としての心構え等が教えられることが多くなった。

このような状況ではあったが、学校に残っている写真には明るい笑顔、行事などに一生懸命に取り組んでいる姿があり、いつの時代にも子どもらしい精一杯の直向きさが伝わってくる。



昭和16年12月8日、日本は太平洋戦争へ突入。非常事態の中で法令が改正されて全ての小学校は「国民学校」に改められた。学習は国民科 (修身・国語・歴史・地理)、理数科、体錬科 (体育・武道・教練)、芸能科 (音楽・習字・図工・裁縫)、実業科に統合改編して義務教育を高等科2年までの8年間とした。

しかし、戦況の悪化とともに学校においても十分な教育が行えない状況になっていった。右上の写真は、昭和10年代後半の運動会の一場面である。防空ずきんをかぶった人たちの消火リレーがプログラムの中に入っていたようである。また、右下の写真からは、運動場に作物が植えられた中で子ども達が体操をしていることがわかる。



昭和19年になると、戦火も一段と厳しくなり学校教育も十分に行えない状況になってくる。本校には資料はないものの「学童集団疎開」で近隣の小学校でも多くの学童を受け入れていた事実からも少なからず影響があったものと考えられる。

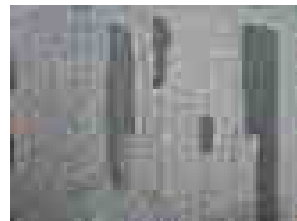
そして、昭和20年8月15日。戦争の終了とともに教育の面でも大転換が行われることとなる。終戦後の教育の再開については次回のたよりで紹介します。

# 明倫小学校百年

## その4-昭和20年代前半

昭和20年8月14日、日本はポツダム宣言受諾し、無条件降伏をした。国民は、暗然として虚脱状態に陥り、「竹の子生活」「タマネギ生活」（竹の子の皮をはぐように、衣類その他の所有品を売って生活費にあてる暮し。一皮むくごとに涙がでる「タマネギ生活」）と呼ばれた厳しい生活を送ることとなった。

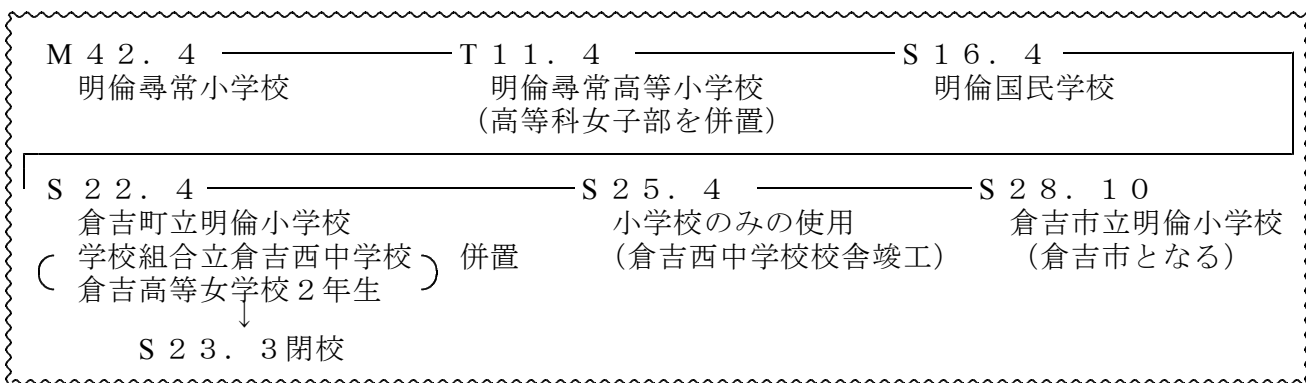
学校教育の面でも目標を見失い混迷の状態であった。同年9月、文部省は通達を出し、教科書の「訂正削除すべき部分」を指示した。いわゆる「墨塗り教科書」である。そのねらいは軍国的な表現を無くしたい。新本ができるまで、その部分を墨で消すか直しておくというものだった。



<墨塗り教科書>

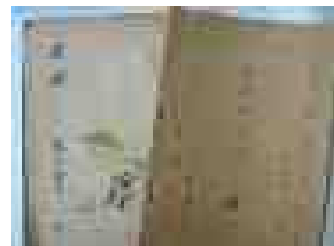
昭和21年3月、アメリカ教育使節団の報告は、教育に新しい改革と民主主義への示唆を与え、明るく新しい希望を与えることになった。昭和22年以降には憲法に基づく教育基本法や学校教育法などが公布され、教育の基が定まってくる。

昭和22年4月、6・3制が採用され、現在の9年間の義務教育となった。教育内容も変わり、新しく「社会科」「家庭科」等が取り入れられた。この年より本校の学校名も明倫小学校となった。学校の系譜をまとめると下記のとおりである。



学校生活も学習・生活面でも整ってきたことが記録（学校沿革誌）からわかる。昭和22年度の記録では、学級編制は、全校で23学級、児童数1102人となっている。主な学校行事としては、次のように記載されている。

- ・4月1日 第1回入学式（新制度における）
- ・6月 修学旅行 松江・出雲大社方面 鉄道事情により3班に分かれて実施
- ・7月15日 夜の会 戦時中中絶のところ復活 音楽劇、舞踊劇など
- ・7月19・20日 海水浴 4年以上 泊海岸
- ・10月5日 秋季運動会
- ・11月28日 天皇陛下行幸の奉迎送
- ・11月26日～28日 県主催奉祝県美術展覧会
- ・12月4日 県音楽会中部大会 本校において開催参加出演入賞多数
- ・12月6日 学芸会 午前校内午後一般
- ・2月28・29日 展覧会 PTA共催、入場来観多数
- ・3月19日 第1回卒業式（男子第32回、女子第39回）



<戦後の教科書>

また、この年より学校給食が開始された。開始に当たっては町の指定を受けてはいたものの設備面等で不十分であり、町予算に加えてPTAからの助成や寄付に負うこととなった。12月より給食が本格的に始まった。



<昭和24年学芸会>

落ち着きを取り戻しつつあった時代にあって、児童の実態を捉えた着実な取り組みを行っている。昭和24年度の学校沿革誌には、明倫教育の目的として、次のように記載されている。

- おおらかな日本人（明るい、素直な、元気な子）
- 民主的社会人（人間関係の目的）
  - 自主的文化人（自己実現の目的）
  - 能率的経済人（経済的効果の目的）
  - 責任的集团人（公民的責任の目的）

水泳の古橋選手の世界新記録や湯川博士のノーベル物理学賞受賞など明るい話題もあり、日本にも元気が出始めた。そのような影響を受け、学校も混迷の時期から脱して学習・生活面でも勢いのある取り組みが行われた。次回は昭和20年代後半から30年代前半の明倫小学校の歴史を振り返ってみます。

# 明倫小学校百年

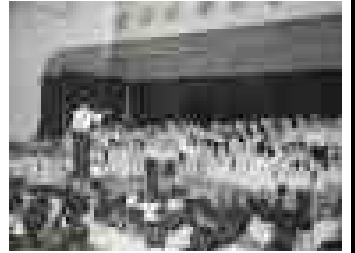
その5-昭和30年前後

日本初のテレビ放送が流れ、「斜陽族・八頭身・鉄のカーテン」といった言葉が流行した昭和28年、旧倉吉町を中心とする近郷8か町村2部落の合併によって人口約5万の倉吉市が誕生した。倉吉市市制施行によって、本校は「倉吉市立明倫小学校」と改称された。

昭和30年前後の明倫小学校の記録（学校沿革誌）を見ると、音楽や美術等の芸術面で特筆することがある。主なものを列記すると、

- 昭和28年10月 NHK 合唱コンクールに本校児童中部代表となる。
- 昭和29年 4月 棟方志功氏を招き、芸術講話を聞く。
- 昭和30年10月 NHK 合唱コンクール中部大会本校で開催。中部代表。
- 昭和31年10月 歌唱コンクールに県小学部優勝 県代表となる

棟方志功氏（日本人初の国際版画大賞受賞、文化勲章受章）を招聘しての講演会開催は当時本校勤務で退職後「無弟」の号を名乗った長谷川富三郎氏との親交が関係していた。また、合唱コンクールをはじめ音楽指導の成果を発揮し、「音楽の明倫」の礎を築いた時期でもあった。



<夜の会の合唱>

## 円型校舎建築

この期の出来事では、円型校舎及び関係工事が挙げられる。校舎の老朽化に加え、戦後のベビーブームによる児童数の急増が原因であった。昭和29年度の新入生は281名（6学級）を数え、しばらくは児童数の増加が見込まれた。限られた敷地を有効に生かすとともに、教育活動の充実を実現する建設について検討が重ねられた。校舎建築に関する記録を見ると、昭和29・30年度で主なものを挙げると、

- 昭和29年6月 校舎改築促進同盟会結成総会
- 同年 11月 市行政、学校関係者県外円型校舎視察（東京、金沢市）
- 同年 12月 市議会で予算案通過決定 484坪、15教室、2420万円
- 昭和30年3月 西校舎（八幡道路側10教室）移築移動開始
- 同年 同月 円型校舎基礎掘開始、基礎の杭打ち工事開始
- 同年9月8日 円型校舎落成式。国会議員、県会議員他来賓多数。向井徹志、牧野晋による「円型校舎の歌（ぼくらの校舎）」を歌い、PTAより記念の菓子を頂き、屋上露天で記念式を行う マスコミ各社取材
- 同年 同月 校庭改装工事着手 保護者・職員・児童による大作業
- 昭和31年3月 給食、宿直、小使室新築及び移築。南校舎内部改造開始



<上:上空から見た校舎 下:円型校舎内部>

日本で小学校最初の円型校舎ということで注目もされ、当時の子どもたちも着々と完成していく校舎を眺めながら「立派な学校が建つ」とやがてできる円い校舎に夢を描いていたのであろう。次のような詩を作った児童がいる。

コンクリートの学校 (4年 影井美佐子)

コンクリートになったら 3がいの上に おくじょうができるだろう  
そのおくじょうには 花がさいて ふんすいがしゅっと  
でているといいな ゆめのように ぽっかりういているといいね

## 多数の来校者

小学校初の円型校舎、様々な研修会・会合が本校で行われ、昭和31・32年度は多数の来校者があった。（2年間で来校者2185名）主なものを列記すると、

- 昭和31年9月 円型校舎落成記念式
  - 昭和32年9月 鳥取県学校給食研究大会開催
  - 同年 10月 西日本図画と作文教育研究大会
- 内容的には、・円型校舎視察 ・音楽教育 ・給食 ・図工教育等がある。このため、学校として経営要覧、円型の歩み等を作成した。

昭和31年度には県立皆成学園収容の児童25名を1学級として本校の分校とすることが認可された。また、この年の終業式（昭和33年3月24日に「古教科書に感謝する会」（現在の教科書祭り）が初めて開催されている。 次回は、昭和30年代半ば頃の明倫小学校について紹介します。

ぼくらの校舎  
作詞 向井徹志

一 まるい校舎の かいだんは  
赤いタイルを しきつめた  
おとぎの国の ごてんです  
虹の手すりを 僕らはみんな  
楽しく楽しく のぼります

二 まるい校舎の たかまどは  
鳩を呼ぶまど 青いまど  
平和のまらの お城です  
口笛吹きつつ 僕らはみんな  
くるくるの テラスを回ります

三 ペントハウスのあの旗は  
のびる僕らのしるしです  
子供の家の しるしです  
明るいへやで 僕らはみんな  
仲よく仲よく 学びます



<鳥取県学校給食研究大会の様子>

# 明倫小学校百年

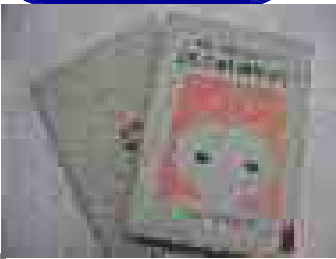
その6-創立50周年頃

即席ラーメンが発売され、手軽さが若者を中心に受け人気商品となった昭和33年、民放テレビ各局が放送をはじめた昭和34年、日本は高度経済成長時代へと突き進んでいった。昭和33年、明倫小学校では、学校創立50周年を迎えた。学校創立50周年の頃から昭和30年代後半までを振り返ってみる。

昭和33年度は第1次ベビーブームの影響もあり、児童数が1320名、29学級（皆成分校含む）と明倫小学校として一番多い年であった。

学年	1	2	3	4	5	6	合計
本校人数	169	207	221	235	282	170	1284
分校人数	2	8	5	6	7	8	36
合計人数	171	215	226	241	289	178	1320
学級数	4	4	4	5	6	4	27(29)

## よろこびあえる学校づくり



昭和33年度は、学校創立50周年という一つの区切りを迎え、学校としてこれまでのまとめをして次へのステップをする年であった。それが、50周年を記念した行事であり、教育活動をまとめた研究物の発刊であった。

「子供の幸福をめあてに『よろこびあえる学校づくり』という形で明倫教育をまとめたものがある（左の写真）。「学校づくりを考える」「子どもとともに歩む」「地域の人々と手をつなぐ」と章立てされた内容は、当時の明倫っ子たちの生き生きとした様子や指導者の明倫教育への思いが伝わってくる。詳細は掲載しきれないが、＜望ましい子どもの人間像＞を  
 ○明るく元気な子 ○始末のよくできる子 ○正しく考える子 ○仲よく助け合う子 ○のぞみをつらぬく子 として日々教育活動が実践されていたことがわかる。

- ・ 4月 始業式、告別（離任）式、入学式、新任式、映画見学、給食開始、児童委員長任命式、身体測定開始
- ・ 5月 創立記念式典挙行、修学旅行（6年）、映画見学、春の小体育会、中部地区児童体育祭参加、全校遠足、シラミ駆除全校実施
- ・ 6月 子供会会長会、すもうドッチボール大会、歯の衛生週間行事、マラソン大会、子供会廃品回収、チフス予防注射、貯金日、山口少年劇団劇観覧、NHK声くらべ子供音楽大会、全校遠足、児童会学校委員会、廃品回収、検便
- ・ 7月 P T A労働奉仕作業習、映画見学、貯金日、夜の会学年別予行演習、夜の会、川開き、映画の日、子供会幹部、第1学期終業式
- ・ 8月 夏期休業開始、6年生キャンプ、第1回登校日、第2回登校日、子供会野球大会
- ・ 9月 第2学期始業式、夏休展（6日まで）、円型校舎祭、創立50周年記念大運動会、身体測定、全国歌唱ラジオコンクール、巡回映画、図画月例展
- ・ 10月 模型飛行機競技大会、検便、6年鳥取旅行、映画見学、遠足、校内球技大会、中部地区球技大会（4年以上全学級参加）、巡回映画、少年消防クラブ交歓野球大会
- ・ 11月 図書館週間、遠足、シラミ駆除、映画見学、高学年体育研究会、大美化、
- ・ 12月 図画室で全国配色展、学校児童委員会、貯金日、体重測定、マラソン大会、退避訓練、児童会第3学期委員立候補演説会、2学期終業式
- ・ 1月 書き初め大会、第3学期始業式、貯金日、身体測定、教科書販売開始、県・市教委計画訪問、文楽観劇（3年以上）、学校給食週間、映画見学、雪だるまの会
- ・ 2月 児童会企画委員会、第2回冬休み、貯金日、学年別学芸会予行演習、学芸会と展覧会、卒業記念写真撮影ピンポン大会、検便、映画観覧
- ・ 3月 巡回映画、映画見学、計算競技会、体重測定、6年を送る会、退避訓練、貯金日、来年度児童会長立ち会い演説会と選挙、6年を送る挨拶の会、大美化作業、卒業式、子供会、教科書祭り、終業式

この年の主な行事と教育活動を見てみると、現在も行っているものもあるが、「夜の会」「川開き」「教科書販売」といったものもあり、時代の移り変わりがわかる。また、「児童会役員選挙・演説」等児童会に関する記述も



あり、現在とは様子が異なっていたようである。＜避難訓練（写真右上）＞  
 ＜運動会の様子（写真右）＞

## 創立50年を過ぎ

創立50年を過ぎ、明倫小学校は充実した教育活動をすすめることとなる。この頃の主な出来事を列記すると、次のようなものがある。

<昭和35年度>

- ・ 学校給食優秀校として文部大臣表彰受賞。
- ・ 本校を中心に版画教育全国大会開催。（6月23・24日）  
北は北海道から南は沖縄県からも参加者あり。会員約700名、盛会。

<昭和36年度>

- ・ 県健康優良学校として3年連続受賞。



<版画教育全国大会>

<昭和37年度>

・NHK歌唱ラジオコンクール県1位。中国地区3位入賞。

<昭和38年度>

・「明倫鼓笛隊」新設。

5・6年生約200名で編成。

<昭和39年度>

・全校児童東京オリンピック聖火を出迎え。

・県児童文化祭を本校で開催。

## 学校生活

右は昭和35年度における1週間の学校生活の一覧表である。現在と比べていくつか違いがある。まず、この頃は授業が7校時の日もあった。授業時間が5年生を例にとると1085時間と現在の915時間より随分と多い。(特別活動及び学校行事を除く)

現在のように学校警備がシステム化されておらず当直(宿直・日直)制度で職員が用務にあっていた。また、校僕(学校の用務員)がいて校門の開閉等をしていた。

児童会活動の一環として週番(学校当番)をおき様々な活動(校旗上げ下げ、校内巡視、窓上げ下げ、廊下の整頓、挨拶等)を行っていた。児童会には役員(会長・副会長)の立候補・選挙を行い、活動の中心となっていた。児童会活動は児童集会や学校行事をはじめ様々な形で児童の参画があった。金曜日の6校時(必要に応じて7校時まで活動することも可)には児童会・部活動(保健、運動、給食、風紀、新聞、調査等19の部)があり、4年生以上の児童が活動していた。

今号では、創立50年頃の明倫小学校についてまとめてみた。児童数の増により昭和33年度には1300人を超えていたが昭和39年度には800人余と減少した。東京オリンピックを契機に一層の経済成長を遂げていく日本。一方では、「核家族・三無主義・しらけ」という言葉の流行してきた昭和40年代。次回は、昭和40年代の明倫小学校についてまとめてみる。

明倫教育機関 昭和35年度 1週間(10月1日～7日)

時間	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日
7:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
8:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
8:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
9:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
9:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
10:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
10:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
11:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
11:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
12:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
12:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
13:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
13:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
14:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
14:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
15:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
15:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
16:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
16:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
17:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
17:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
18:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
18:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
19:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
19:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
20:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
20:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
21:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
21:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
22:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
22:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
23:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
23:30	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業
24:00	始業	始業	始業	始業	始業	始業	始業

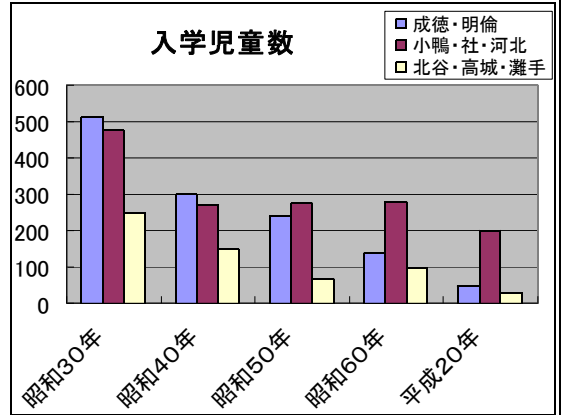
# 明倫小学校百年

その1-昭和40年代

東京オリンピック後、日本はベトナム戦争や大阪万博等の特需もあり、高度経済成長を続け、昭和40年代には国民総生産が資本主義国家の中で第2位に達した。また、テレビ・洗濯機・冷蔵庫など家庭製品の普及は生活時間の配分にも大きな影響を与え、女性の社会進出を少しずつ促すことになった。

高度経済成長は、倉吉市内の児童数の変化をもたらした。中心部にある明倫・成徳校区の減少とその周辺部（小鴨・社・河北）への住宅移行である。（右：倉吉市地区別の入学児童数の推移～倉吉市史の資料より一部加えて掲載）

明倫小学校では、児童数は昭和40年代はほぼ800人前後で推移している。これは、八幡町やみどり町等の住宅地の造成や団地の建設によるものであり、昭和50年代以降は減少傾向が続いている。下の町別児童数の表からも児童数の減少と校区内での人口動態の状況がわかる。



町名	河原	鍛冶1	鍛冶2	広瀬	越中	越殿	福吉	福吉2東	福吉2西			東岩倉	西岩倉	瀬崎	余戸谷		その他	計	
昭和40年	112	72	43	57	48	41	70	82	48			23	14	51	124		29	814人	
町名	河原	鍛冶1	鍛冶2	広瀬	越中	越殿	福吉		福吉2	金森	旭田	東岩倉	西岩倉	瀬崎	余戸谷	八幡	みどり	その他	計
平成20年	19	4	3	14	11	9	18		8	3	6	0	4	9	17	31	61	1	218人

## ひとりひとりを生かす教育



〈上：校内相撲大会、下：金管バンド〉

明倫小学校では、高度経済成長という社会情勢の中、ハード面・ソフト面のさらなる充実が図られることとなった。

常に明倫教育の継承を図りながらその時代や児童にあった教育の実践を推進し、発展させてきた経過がある。昭和30年代前半には「よろこびあえる学校づくり」という形で世に問うたことは既述した。そして、昭和30年代後半から40年代にかけての明倫教育のキーワードは、「ひとりひとりを生かす教育」であった。学習指導・生徒指導（教育課程に関すること）はもちろん学校組織のあり方等にも研究を深めていった。昭和43年、44年の2年間は県の実験学校の指定を受け研究発表会を行った。国語・算数等の学習はもちろん、学校行事や課外活動も含め児童ひとりひとりが生き生きと活動する明倫っ子であった。

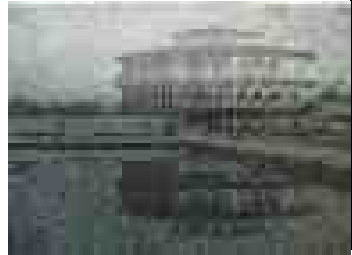


〈上：運動会騎馬戦、下：教科書まつり〉

## 教育環境の充実

### プール建設

昭和40年代は、教育環境とくにハード面での整備が進んだ時でもあった。東京オリンピックを機に体力と運動能力の向上をめざして施設の充実が図られた。本校に関係するものでもプール建設、体育館の改築、市給食センター設置といったものがある。プール建設は、当時は悲願の事業であり学校・PTA・地域全般の協力の下建設に向けた活動が行われた。昭和40年度の水泳プール建設委員会発足、







＜昭和40年代の校舎配置図と写真＞

市議会等での予算可決、昭和41年度に入  
って国庫補助決定、プール敷地造成のため  
の明倫公園樹木移転等のPTA奉仕作業を  
経て9月16日にプール開きを行った。

プール開きには数多くの来賓の他、市内  
小学校児童（前年までにプールのできてい  
た上小鴨・西郷・成徳・河北の代表）や倉  
吉西高等学校水泳部員の模範水泳等もあ  
り、大いに盛り上がった。プールのできた喜びを次の  
ように書いていた児童の作文を紹介する。

めいりんプール 3年 F・E

私たちの学校にプールができました。プールで泳いでみる  
と川泳ぎに行っていた頃とはくらべものになりません。  
まず第一に近いということ、次に清潔だということです。  
そして、安全です。ですから川のように、目が悪くなったり、  
きたない水を飲む心配もなくなったわけです。そして、おほ  
れる心配も少しもありません。・・・・・・・・

プールができた喜びの詩を5年、6年の人が書きました。  
その中で一番よいのを選んでプール開きの歌もできました。  
プールができたので、みんなが水泳の上手な生徒になりたい  
と思います。 （昭和41年明倫月報69号より抜粋）

## 体育館改築

児童の体力向上・健康増進に体育館の活用は重要である。当時の体育館は建設からか  
なりの年数がたち、傷みも激しくなっていた。昭和43年9月、体育館建設委員会が結成された。同年  
11月、「公害等不適格校舎」の指定を受けたのを機に体育館改築への動きが加速された。翌44年3  
月末には体育館が完成、児童の使用が可能となった。

プール建設・体育館建設にあたっては工費だけでなくPTAや地域の支援もあり、その一部を全教室  
にテレビ備え付け（プール完成記念事業）やグランドピアノの購入（体育館建設記念事業）にあて、教  
育施設の充実に資することとなった。

## 市給食センター設置

学校給食は、児童ひとりひとりが生涯にわたって健康で充  
実した生活を送ることができるように、教育の一環として実施されている。現  
在では当たり前のことのようにになっているが、倉吉市では昭和22年のミルク  
給食から始まり、明倫小学校でも昭和31年6月に給食室が完成し、自校方式  
による完全給食が開始されていた。

昭和44年4月、倉吉市では給食センターを設置し全小中学校給食センター  
方式で学校給食が行われることとなった。同年8月、使われなくなった給食室  
は理科室に改造された。当時（昭和42年度）の学校の資料に給食会計についての既述があり、1食あ  
たり42円（現在は1食259円）で、パン代8.7円、牛乳代5.9円、副食代25.8円とある。また、現  
在ではない燃料代・加工費といった項目も見られた。



＜自校での給食調理＞

## 充実の明倫教育

教育環境の充実というテーマで記述してきたが、昭和  
40年代には、まだ書ききれなかったことも数多くある。

下記に主なものを列記する。

- 昭和41年度 教科書無償給付制度が小学校全学年で実施される。
  - 昭和42年度 学芸会を音楽会と改める（出演者が限られがちな舞踊・劇  
から全児童が参加できる音楽会へ：学校沿革史から）
  - 昭和44年度 市内全学校で同和教育（人権教育）に取り組む。
  - 昭和48年度 難聴児学級開級、聴力適応型訓練機など備える。
  - 昭和48年度・昭和49年度 NHK合唱コンクール県大会1位。
- 次号は、昭和50年代の明倫小学校について紹介します。



＜プールでの楽しい学習＞

## 耳寄りな話

創立100周年を来年に控え本校の卒業生も11751人（平成19年度現在）となる。しかし、転出した児童を含めると明倫小学校で学んだ児童はもっと多い。

その中に、落語家となった「前田達」がいる。神戸市に誕生、昭和20年6月神戸大空襲により被災、父の故郷倉吉へ転居した。翌年、4月明倫小学校に入学。翌5月には伊丹市へ転居することとなった。わずか1ヵ月程の「明倫っ子」であるが、彼には明倫小学校が印象に残る学校となった。彼の落語の一節に明倫小学校のことが出ているのである。それは、代筆屋に履歴書を書いてもらう留さんが、自分が通った小学校を説明する場面である。

代筆屋「何という小学校、どんな小学校や？」

留さん「校門のところ大きな桜の木がピヤーツ、ピヤーツ、ちょうど5本ありまして春になったら満開です。・・・散ると、おなごの子が針と糸持ってきて、花びら一枚ずつこおしまして、まあるいもんこしらえて、こんなところへ着けて『留ちゃん、きれいやろう。あんたにはやれへんわ。あーほ。』そういうような学校です。」

残念ながら、桜の木は校舎建築の関係で切ることとなり現在は残っていない。しかし、彼の中では落語の一節にも使った思い出の小学校なのであろう。「前田達」とは、上方お笑い大賞・大賞を受賞、数々のテレビ番組にも出演、海外での英語落語講演もこなした「二代目桂枝雀」である。



<旧明倫小学校正面前>